



屋根裏部屋マダム、パリ郊外の素敵なマダム etc.  
フランス・マダムのキッチン拝見!

別冊付録 2022年  
華やかなアレンジで大好評!  
花のカレンダー  
Flower Gift Calendar

Vol.14 セゾン・ド・コ

エリコ流クローゼットルー  
私のときめき  
秋冬スタイル

私のキッチンが  
オリジナル  
ショッピングカ  
完

中村江里子の  
Saison d'Eriko  
デイリー・スタイル



おうち時間が増えて  
さらに気になる

自分らしく、自由に、センスよく  
フランス・マダムの  
キッチン拝見!



## Jardin et Terrasse

お天気のよい日は庭と  
テラスでおもてなし

La cuisine à la française

フランス・マダムの  
キッチン拝見!



ノルマンディーの自然あふれる  
美しきカントリーライフ

シャロンさんが暮らすのはパリから西へ車で1時間少しドライブしたノルマンディー地方の入り口。画家クロード・モネが後半生をかけて築きあげ、そこでたくさんのお名作を生んだ庭園と家があることで知られるジヴェルニーからもそう遠くないところにあります。私たちが訪ねた日は、幸いとてもよいお天気で、門を入るなりみずみずしい緑が光に

## 20年以上かけて 丹精した庭の花と好きな 絵があるキッチンです

Sharon SANTONI

シャロン・サントニ

[ age 62 ]

英国生まれ。20代始めの南仏留学で知り合ったフランス人男性と結婚して以来、人生の半分以上をフランスで過ごす。4人の子育てに専念したあと一念発起してブログ開始。ノルマンディー地方の自宅での暮らしをはじめ、フランスのアール・ド・ヴィーヴルを紹介する発信が人気を呼び、書籍の出版や雑誌の発行、そして物販、オリジナルな旅のオーガナイズなど、事業を拡大して活躍中。



シャツドレス、素足の一部のようなローヒールのシューズ。シャロンさんのアール・ド・ヴィーヴルのカラーコーディネートネットはいかにもナチュラルですが、彼女がひとたび微笑むと、内側からにじみ出てくる華があります。開口一番、「英語、それともフランス語がいいかしら?」と、彼女。いかにもフランスのマダムという風情のシャロンさんですが、じつは英国人。フランス人の夫と恋に落ちたのと同時に、フランスそのものの豊かさ、ライフスタイルにも魅せられ、



目を守られるようにしてたたずむ家。2. 昔は納屋として使われていた建物の壁にもお気に入りのバラがたわわに花をつけている。キッチンやダイニング、サロンを飾る花はこうして一枝ずつ丁寧に選んで。3. 愛犬と一緒に庭を一回りしてバスケットいっぱいの花を摘んだシャロンさん。



4. テラスのテーブルをサロンから見たところ。つるバラがまるで額縁のよう。5. テラスのテーブルの花飾り。いろいろな品種のバラを一輪ずつリキュールグラスに入れて、一人ひとりの席の前に置いて。6. ウェルカムコーヒー。器はさまざまだが、全体として統一感があるのがシャロンさん流。



子どもを育てると同じように  
歳月をかけて育んだ住まい

彼女のおもてなしはまず、お宅の前の気持ちのよいテラスから。白いパラソルの下、藤椅子に落ち着くと、キッチンから香りのよいコーヒーが運ばれてきました。1997年から住んでいるというお宅は、この土地の昔ながらの造りの家で、壁をつたうバラをはじめ、豊かな花々に囲まれています。「この家を買ったとき、バラは赤と黄色だけで、私が好きな色ではなかったため、少しずつ自分の好みの品種に植え替えていったの」と、シャロンさん。

20年以上かけて丹精してきた庭はどこを切り取っても絵になるような夢の世界で、それは愛犬が思いっきり駆け抜けていける距離にまで広がっています。芝生を歩いてゆくと、左には緑の垣根に守られたプールと寝椅子のエリア。奥には菜園も。「いちご、フランボワーズ、りんご、プラム、ハーブ、トマト、じゃがいも、アーティチョーク、ルバーブ……」。シャロンさんの口から次々に繰り出す作物の名前を聞いていると、この家のテーブルの季節ごとの彩りが目に浮かぶよう。キッチンでフツフツと音を立てて煮えるジャムの香りまで伝わってきそうなお気がします。





5



1



6



4



2

1. シャロンさんの構想を村の木工職人さんが形にしてくれたというキッチン。中央のテーブルには食器やカトラリーの収納機能も。2-3. この日のランチのメインディッシュはチキン。オリーブオイルをかけたミニトマトもオーブンで焼いて付け合わせに。4. みんなが大好きなプリンも完成！  
5. 絵画の収集は夫婦共通の趣味。食材がテーマになった絵をキッチンに。  
6. 窓辺は庭の可憐な花たちのステージ。

## Cuisine

間取りもテーブルも  
私好みの設計で



9



7



8

*Salle à manger*  
**花とろうそくと暖炉で  
 心も温められる時間**

7. 庭でその日いちばん心にとまった花を主役にする花飾り。この日は、アブラハム・ダービーという名前の大輪のバラ。8. スープの器は「ジャン」の最近のシリーズ、それを受けるお皿はアンティーク。カトラリー、グラス、リネンも新旧自在の取り合わせで、温かみのある世界観に。9. 椅子とカーテンのファブリックは「アントワネット・ボワッソン」。落ち着いた色調の内装に花が映える。





## Salon

家族の歴史を  
感じる穏やかな場所



1. 画家レミー・ベッシュの作品がお出迎え。2・4. それぞれに思い出のある絵やオブジェを飾ったサロンの一角。庭の花たちがみずみずしい生命感を添えている。3. シャロンさん主宰の雑誌『My French Country Home』。フランス各地に取材した記事など盛りだくさんで、隔月の発行。5. 2017年からはシャロンさんセレクトのフランスの素敵なものがギュッと詰まった玉手箱「My French Country Home Box」の販売開始。3か月ごとに内容が刷新され、サイトからのオーダーで世界各地に届けられる。  
<https://myfrenchcountryhomebox.com>



暖炉の火を眺めながらのティータイム。若き夫妻が南仏で一緒に暮らし始めるのに必要な食卓を探しにいったアンティーク店で、テーブルを買うかわりにこの絵に一目惚れして持ち帰ったという思い出のある絵が飾られて。

## 人生の円熟期を生きる

シャロンさんのお宅や暮らしぶりを垣間見ると、「ART DE VIVRE (アール・ド・ヴィーヴル)」という言葉が浮かびます。辞書には「生きる術、知恵、作法」とありますが、生活のさまざまなモノやコトの美、といった広がりをもって使われることの多い言葉です。シャロンさんはまさにそれを体現し、家族で楽しむだけでなく広く世界の人々と分かち合っています。

2009年の大晦日のテーブルで、シャンパーニュのグラスを掲げながら、シャロンさんは家族に宣言をしました。「来年からは生き方を変える」と。およそ20年間、4人の子育てに全力で取り組み、末っ子にもあまり手がからなくなったタイミングでした。2か月後にはブログを開設。フランスのアール・ド・ヴィーヴルを英語で発信するブログ「My French Country Home」はとくにアメリカ人のファンを獲得し、14年には本を出版。そして19年にはブログと同名の雑誌を創刊するまでになりました。美しいもの、素敵なものへの感応を伝えたい、分かち合いたいという気持ちは、彼女の子育て後の人生をさらに実り多きものになっているのです。